

觀世流

緑泉会

令和二年 第四回例会

十二月十九日（土）

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂

能 Noh 玉鬘 Tamakazura 津村 禮次郎

狂言 Kyogen 羽衣 Hagoromo 墨

天鼓 Tenko 新井 麻衣子

雁大名 Gandaimyou 石田 幸雄

舞囃子 Maibayashi 敬子



「玉鬘」(撮影 吉越 研)



「天鼓」(撮影 宮崎 光章)

お客様各位

新型コロナウイルス感染は、未だ樂觀を許さない状況ではありますが、防疫体制も整いつつあり、緑泉会の第4回例会を開催することとなりました。お客様に様々な制約をお願いする中、大変心苦しくは存じますが、皆様おひとりおひとりのご来場が今の能会の運営を支えています。七百年近い伝統を次世代に受け渡すための一助をお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」、ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催します。

【お客様へのお願い】

- ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- 37.5℃ 以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先（メールアドレス、または電話番号）をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に記帳をお願い致します。
- ※万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- 当日の社会状況により、使用可能な座席の指定ならびに館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従って下さい。
- 上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音が障りになる場合もございますが、ご了承下さい。
- 上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

玉鬘内侍 津村 禮次郎

玉 鬢

旅僧 野口 琢弘

大鼓 佃 良太郎

小鼓 鶴澤 洋太郎

笛 一唄 庸二

門前ノ者 中村 修一

後見 坂 真太郎

地謡 觀世 喜正

中森 健之介

奥川 恒治

中所 宜夫

中森 貴志

桑田 貴志

【休憩十五分】

大鼓 佃 良太郎

太鼓 小寺 真佐人

太鼓 杉 信太朗

笛 藤村 答

地謡 永島 充

鈴木 啓吾

吉留 敬高

中村 修一

狂言 舞囃子 羽 衣 墨 敬子

小鼓 大山 容子

太鼓 大山 容子

笛 棚屋 月崎

地謡 晴夫

後見 中村 修一

狂言 雁 大名

大名 石田 幸雄

太鼓 雁屋 太郎

笛 岡 月崎

地謡 晴史

後見 中村 修一

能 天 鼓

新井 麻衣子

勅使 福王 和幸

大鼓 亀井 飯田

小鼓 清一 楠宅

地謡 桑田 中森 鈴木 啓吾

地謡 中森 宜夫 啓吾

地謡 桑田 貴志 啓吾

地謡 中森 貴志 啓吾

勅使ノ従者 野村 太一郎

後見 河井 美紀

坂 真太郎

地謡 永島 觀世

地謡 奥川 恒治

地謡 中森 健之介

附 視言

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。

【終了予定四時三十分】

能・玉鬘 (たまかずら)

源氏物語の作中人物である玉鬘は、光源氏のライバルである頭の中将と夕顔の間に出来た子で、数奇な運命とその美貌による騒動に翻弄された半生を送る。

初瀬詣に訪れた諸国一見の僧(ワキ)が、秋の山川に翻弄されつつ小舟を操る女(前シテ)と出会い、二本杉に導かれ、当地ゆかりの玉鬘の内侍の物語を聞く。夕顔の死後乳母に連れられて筑紫で成人し、煩わしい求婚騒動から逃れて上京、初瀬詣の折にこの杉の下で夕顔の侍女だった右近と再会したといふ。女は僧に供養を頼むが、自分が玉鬘であると名乗る間もなく姿を消した。(中入)

僧は、門前の者(間狂言)から同様の物語を聞く。僧の弔いによって玉鬘内侍(後シテ)は在りし日の姿で現れ、多くの男に思いを寄せられて苦しんだ半生の苦悩を訴えたが、最後にはその妄執を去つて覚醒する。

狂言・舞囃子・羽衣 (はごろも)

漁夫に羽衣を奪われた天女が、返された衣を身に纏い、返礼の約束に天女の舞を舞う。月宮殿に劣らぬ三保の松原の美しさを讃え、月に祈りを捧げる、天上から音楽が鳴り響き序之舞となる。さらに舞うと天上の寿福が地上に降り注ぎ、天女は富士を目指して飛んでいった。

狂言・雁大名 (がんだいみょう)

京都で訴訟事が叶ひめでたく帰郷の運びとなつた田舎大名は、在京中お世話になつた人々に馳走をする事を思ひ立ち、太郎冠者に肴物を買ってくるよう命じる。太郎冠者は早速市場へ行き、初雁を求めようとするが、馴染み

の店ではないためツケでは売つてもらえず、一旦屋敷へ戻り主人に代金を請求したもの、長年の滞在で一文無し。そこで思いついた太郎冠者の秘策とは:

仕舞・船辨慶 (ふなべんけい) キリ

平知盛の怨靈は、義経を海底に沈めようと長刀で襲いかかるが、弁慶が数珠をもみ五大尊明王に祈る力によつて、調伏されて彼方に消えた。あとには白波だけが残つていた。

能・天鼓 (てんこ)

舞台は唐土後漢、紀元一世紀頃の中國のお話。勅使(ワキ)が天の鼓を打ち鳴らす少年天鼓の事を物語る。帝は鼓を望んで召し上げようとするが、天鼓はこれを拒み、捕えられて呂水に沈められ、一方、鼓は誰が打つても音が鳴らないという。父の王伯(前シテ)なら鳴るのではないかとの召喚に向かった勅使は、悲しみに沈む王伯を宥めずかして宮殿に連れて来る。その壯麗さに身の竦む王伯だったが、勅使に重ねて促され、渾身の一撃をふるう。妙なる響きが広がり、親子恩愛の不思議さに、帝は涙を浮かべ、管弦講の弔いを従者(間狂言)に命じて王伯を家へ帰した。(中入)



入場料

会員券(年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円
1回券(当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能樂師または緑泉会まで

津村 禮次郎 TEL 042-386-2131
FAX 042-386-2132

墨 敬子 TEL&FAX 045-544-6787
新井 麻衣子 TEL&FAX 04-2946-8389

令和2年第2回例会延期公演 令和3年2月11日(木・祝)

能…籠太鼓 Routaiko 杉澤 陽子
能…鶴 白頭 Nue shirogashira 鈴木 啓吾

第4回例会

2020. 12.19(土) PM1:00(開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9
☎ 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

*駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。